

# Nara Women's University

都市「中流住宅」における生活者の住居観と住生活  
改善

-大正期を中心とするデモクラシー期の「婦人之友」  
誌の分析をとおして

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 久保加津代 公開日: 2012-05-17 キーワード (Ja): デモクラシー, 住居, 住生活, 住宅, 女子教育, 生活, 大正, 婦人之友 キーワード (En): 作成者: 久保,加津代 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10935/2997">http://hdl.handle.net/10935/2997</a>

## 第2章 『婦人之友』誌にみる住生活関連記事の概要

### 第1節 住生活関連記事の割合と内容の特徴

#### 1. 住生活関連記事の割合

大正期を中心とするデモクラシー期の『婦人之友』誌に掲載された住生活に関連した記事は、少なくとも500件以上、頁数にして1800頁をこえているが、この時代の『婦人之友』誌全体に占める住生活関連記事の割合は少ない。頁数の割合をみると、年によってばらつきはあるものの、いちばん多い年でも6%程度であり、年によっては1%にみえないものもある。

#### 2. 住生活関連記事の特徴

しかし、『婦人之友』誌の記事全体に占める住生活関連記事の割合は少ないが、第2節で詳しくみるように、記事の内容が単なる住宅の外観の紹介や掃除や整理整頓の仕方、設備に関する知識といったようなものばかりではなく、住宅の平面図や住み方や住居観をとおして住様式の問題にまで言及したものが多いことは、『婦人之友』誌の特徴である。『婦人之友』誌を分析対象に選んだ理由の一つである。

#### 3. 都市・住宅問題に関する記事

『婦人之友』誌も、時代の影響を受けて内容の変化している雑誌である。こうした『婦人之友』誌の性格は、『婦人之友』誌の特徴とも限界ともいえるものであるが、この時代の『婦人之友』誌には、あたらしい家庭生活像を求める姿勢に、時代の影響も加わって、都市の住宅事情や住宅問題に関する記述もいくつかみられる。目次を拾ってみると、

1912 明治45年	4月号	都會に於ける住居難	生江孝之
1915 大正4年	6月号	家を建てるのと借りているのと	村山元子
1919 大正8年	5月号	都市と住宅の問題（建築學會の講演會のメモ）	

1921	大正10年	8月号	都會生活と住宅難	布施辰治
1922	大正11年	8月号	住宅建築に現れたる時代の姿	佐藤功一
1925	大正14年	5月号	都市の美観・下水施設その他	小野基樹
1925	大正14年	10月号	櫻井の住宅地より	ふみ子
1926	大正15年	5月号	よき生活と都市問題	渡邊鐵蔵
1929	昭和4年	12月号	家賃調べ	
1931	昭和6年	4月号	婦人の立場からみた住宅問題	土浦のぶ
1932	昭和7年	12月号	われらの家計の問題 借金をしても家を建てたい家計	

などである。いくつかの記事の概要をみれば、

(1) <sup>なまえたかゆき</sup>生江孝之「都會に於ける住居難」

明治時代中期以降、わが国の産業は急速に発展し、日露戦争前後からは軽工業とともに重工業も発達していく。産業と大量の人口が都市に集中しはじめ、都会における住宅難は深刻な様相を呈しはじめた。『婦人之友』誌にも、各戸の住宅の内部の問題だけではなく、いわゆる住宅問題や都市問題がとりあげられるようになる。1912(明治45)年にはキリスト教の伝道家で「社会事業の父」<sup>1)</sup>と呼ばれた生江孝之が「都會に於ける住居難」を論じている。

以下に概要を述べる。

『東京・大阪の細民の住宅事情はひどいもので、最近東京市が調べたところ、3円以下の家賃の住宅に住んでいるものが少なくとも20万人以上はある。多くは低湿地に住んでいるので、その状況は惨憺たるものである。諸外国の細民の住居難の状況をみれば、日陰の植物のような悲惨なありさまで、飲酒に走っており、住居が人間におよぼす感化は大きなものである。英国をはじめとする諸外国では社会事業として、貧民屈の住居難を取り除いており、教会にも出席するようになった』ことなどを紹介している。

イギリスのオクタビア・ヒル女史についても紹介している。

『ヒル女史が住宅改良に成功したのは、始終變はらざる同情と、親切なる態度で熱心に生活改善を説いたからであって、家屋の改造には家庭の改良が基本である。わが国でも浅草玉姫町の市営住宅は、幼児委託所や集会所・娯楽所も備え、救済的、改善的である。われわれも各自の住宅難だけではなく、労働者の住宅難に思いをめぐらそう』という趣旨のものである。あくまで慈善の立場からではあるが、労働者の住宅難の問題が社会的な関心になりはじめたことがわかる。

## (2) 日本建築學會「都市と住宅の問題」

1919(大正8)年には、「都市と住宅の問題」と称する建築学会の講演会の概要が紹介されている。住宅が都市の一部を構成しているという認識にもとづいて、いろいろの立場から問題提起がされているもので、興味深い。東京の住宅難と都市の無計画性を具体的に指摘し、道路もふくめて計画的な東京の都市計画をとというものが多いが、他に郊外住宅地の開発を提唱するもの、外国に習って経済的で衛生的なアパートメントを推奨するもの、そして一般市民への教育の必要を説くものなど、あらゆる問題が出されている。住生活の問題が都市問題の視点でとらえられるようになってきたことを示すものであろう。

## (3) 布施辰治「都會生活と住宅難」

1921(大正10)年には、弁護士布施辰治が「都會生活と住宅難」と題して、当時頻発するようになっていた借家争議の問題をとりあげている。

概要はつぎのとおりである。

『借家争議は運の悪いかわいそうな借家人の問題だと思っているかもしれないが、中産階級にもすぐに波及する状況になっている。借家の問題は国家的な関心となっており、新借家法も成立した。東京市の住宅事情を統計的に説明すると、全東京市の居室面積を人口(2,377,884人)で割ると、一人あたり3.5畳となっている。ところがある調査によると、持ち家の平均は1戸あたり約33坪、畳数約41枚で、1人あたり畳数7枚弱となっている。東京の全住宅のうち、6万戸が持ち家、25万戸弱が借家用だと推定されるが、そうすると、借家の1人あたり居住面積は1.5畳となり監獄以下の状況である。また、25万戸弱の借家数に対して、借家人は56万世帯強となっている。1人あたり居住面積の面からみても、借家数からみても、驚くべき借家の払底状況である。他人ごととしてではなく、重大な社会問題としてとらえる必要がある』というものである。

第一次世界大戦中の好況と急速な工業の発展によって、物価がはげしく上昇し庶民の生活を圧迫した。都市では住宅が不足し、家賃も急上昇した。寺内内閣がシベリア出兵の方針を固めたことから、米の投機的な買い占めと売り惜しみも加わって、1918(大正7)年には米騒動が起こっている。結局、寺内内閣は退陣を余儀なくされ、これをきっかけに普選運動をはじめとする政治運動はもちろん、民衆的な労働運動、農民運動などが活発になっていく。1920(大正9)年には日本で最初のメーデーもおこなわれている。借家争議も頻発するようになる。家賃が急上昇したうえ、一部家主が乱造した借家で法外な家賃をとった

り、家の明け渡しを迫るなどしたので、東京・大阪・仙台などで借家人が結束して争議を起こした。1921(大正10)年には借家人組合が結成され、翌1922(大正11)年に布施辰治らを中心に借家人同盟へと改組された。この借家人同盟は、その後関東大震災後の被災地での借家人の権利擁護の運動などに大きな役割を果たし、労働農民党の結成に参加していく<sup>2)</sup>が、その中心となった布施辰治が、東京の借家のすさまじい状況を分析的に書いており、当時の生々しい様子が伝わってくる。

#### (4) 新しい町

1925年の一連の新しい町に関する論文は、この時代に出現しはじめた田園都市の問題を中心にした、いろいろの方面からの提言である。欧米諸外国の例に学びながら、これからの都市生活を展望しているものである。

1925	大正14年	8月号	新しい町の設計圖		
1925	大正14年	8月号	新しい町に望む	都市と田園	三宅雄二郎
1925	大正14年	8月号	新しい町に望む	新しき町の消費經濟	安部磯雄
1925	大正14年	8月号	新しい町に望む	道路と公園の裕かな市街	田川大吉郎
1925	大正14年	8月号	新しい町に望む	發生的に考へる	遠藤 新

のとおりである。

#### (5) 集合住宅・グループ住宅

集合住宅やアパートメントについて紹介したもの

1918	大正 7年	2月号	親しい友達同士のホーム		ミスページ
1922	大正11年	2月号	私の経験しつつあるアパートメント		一海軍士官
1926	大正15年	4月号	アパートメントの話		稲宮又吉
1926	大正15年	8月号	中産階級のアパートメント		
1929	昭和 4年	8月号	アパートメント		
1929	昭和 4年	10月号	アパートに住んで働く夫婦		記者
1930	昭和 5年	9月号	共同住宅の方へ		石原憲次
1930	昭和 5年	11月号	住み方さまざまアパート生活		
1931	昭和 6年	4月号	アパート生活細断面		
1931	昭和 6年	9月号	現代の集合住居		蔵田周忠

1931 昭和 6年 12月号 4軒の集合住宅	
1933 昭和 8年 2月号 アパート経営の手引	細木盛枝
1934 昭和 9年 5月号 アパート住まい	

や、グループ住宅の試みもみられる。

1930 昭和 5年 8月号 グループ住宅について	川喜多煉七
1930 昭和 5年 10月号 グループ住宅にメ切前後	
1930 昭和 5年 11月号 グループ住宅懸賞当選発表	遠藤 新
1932 昭和 7年 1月号 国際グループ住宅の實現	佐藤瑞彦
1932 昭和 7年 1月号 四家族のグループ住宅	
1932 昭和 7年 4月号 南洋の一小島で国際グループ住宅を試みて	

『婦人之友』誌はこうした点からも興味深い資料である。

## 第2節 住生活関連記事の経年変化

住生活関連の記事は、記事の分量だけではなく、扱われている内容にも経年的に変化がみられる。内容を、表 2-1 のとおりに分類して経年的な動向をみた(図 2-1 参照)。

- |  |
|--|
| <p>a. 住様式 住様式・住居観・住宅の平面図などが採取できるもの。本研究の主たる分析対象である。</p> <p>b. 保健・衛生</p> <p>c. 台所 『婦人之友』誌の性格上、能率的な台所や台所改善などに関する記事が多いため、他の設備や保健衛生などとは別に項目を設けた。</p> <p>d. 設備 風呂・便所・洗面所などに関するもの。</p> <p>e. インテリア・照明・家具</p> <p>f. 住居管理・掃除・整理整頓</p> <p>これも『婦人之友』誌の性格上、かなりの分量の記事がみられる。台所や他の設備に関するものは、この項では扱わず、それぞれの項目に入れた。</p> <p>g. 住宅の工法や構造に関する技術的な問題</p> <p>h. 住宅問題・住居費</p> <p>i. 都市問題</p> <p>j. 他・分類不能</p> |
|--|

表 2-1 住生活関連記事の内容の分類

住生活関連記事のなかで、住宅の平面図・住み方・住居観などが採取できるものを a. 住様式 の記事として、本研究の主たる分析対象とした。住生活関連記事全体に占める a. 住様式 の記事の比率はかなり大きいですが、経年的には1935年以降少なくなる。この研究の分析対象を1934年までとした大きな理由である。残りの記事を b. 保健・衛生, c. 台所, d. 他の設備, e. インテリア・照明・家具, f. 住居管理・掃除・整理整頓, g. 住宅の工法や構造に関する技術的な問題, h. 住居費・住宅問題, i. 都市問題, j. 他・住生活全般にわたるもの・分類不能のもの に分類した。

f. 住居管理や掃除・整理整頓 に関する記事は、a. 住様式 の記事とは逆に1935年ころから多くなる。内容としても、f. 住居管理や掃除・整理整頓 に関するものは、初期のものは和風住宅の管理の問題をとりあげ、間取りの変容にかかわる議論を展開しているが、しだいに整理整頓の仕方に片寄っていく。1935年以降のものでは「隅から隅まで徹底的に整理された家」(1936), 「無駄無しの家・生活の端々に細かな工夫」(1937), 「整理下手の家の整理手ほどき」(1942)など、工夫を重視するものが多くなり、時代を反映して「非常時対策生活革新の事例」(1937)などという記事がふえていく。b. 保健衛生, c. 台所, や d. 設備, e. インテリア・照明・家具, の項目などについても同様のことがいえる。創刊当初から大正時代の記事は新しい生活様式を積極的に求めていく姿勢が強いのに対し、昭和時代に入ると工夫に関するものが多くなり、とくに昭和十年以降は「最も無駄のない能率的な照明を」(1939)など、工夫に終始する。

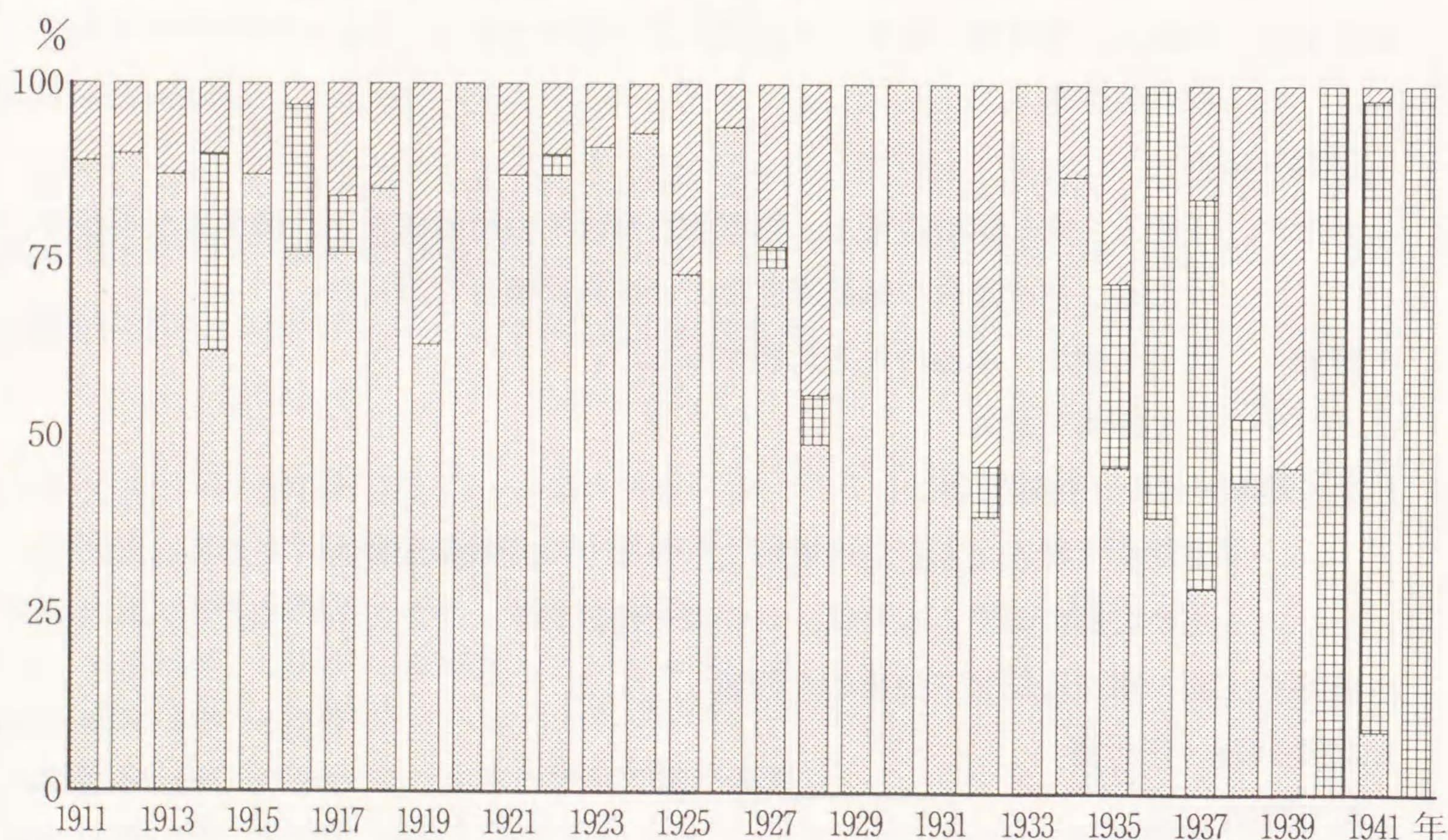





図2-1 住生活関連記事に占める内容別頁数の割合

 a. 住様式  
 f. 住居管理  
 c. 台所

### 第3節 住生活関連記事の著者

『婦人之友』誌の記事は著者別に大きくつぎの3つに分けられる。

#### 1. 読者の記事

『婦人之友』誌の大きな特徴ともいえるものだが、読者（おもに主婦）の投稿記事が多い。約150件、400頁以上におよんでいる。『婦人之友』誌読者には、実生活のなかで住生活の改善に努力している人が多く、その体験を交流する記事が多い。編集部も「読者と懇親を結び、お互いに家庭のことを研究したい」と投稿欄・相談欄・競技課題を設けている。まさに「読者との協同によって生活のなかに実現していく実験精神」<sup>3)</sup>である。住生活関連だけをあげても、

1914（大正3）年4月号	『住みよき家の間取り圖』
1921（大正10）年4月号～5月号	『何んな住宅が欲しいか』
1922（大正11）年11月号	『理想と實際の小住宅』
1923（大正12）年3月号～1924（大正13）年2月号	『住宅建築問答』
1926（大正15）年4月号	『私の住居』
1928（昭和3）年4月号	『家を建てるまで』
1928（昭和3）年10月号	『臺所の工夫いろいろ』
1929（昭和4）年6月号	『臺所の研究』
1932（昭和7）年7月号	『特集台所浴室洗濯場』
1933（昭和8）年10月号	『理想の我が家』
1934（昭和9）年11月号	『女性の手になる家庭家具の設計』

などの企画がみられる。

#### 2. 専門家による記事

専門家による啓蒙的な記事も充実しており、百数十件、500頁以上におよぶ。著名な建築関係者だけをあげても、橋口信助、伊東忠太、佐野利器、大熊喜邦、遠藤 新、木檜怒一、佐藤功一、徳永 庸、櫻井省吾、今和次郎、市浦 健など多彩な顔ぶれである。当時の住生活に関する専門家の啓蒙の状況を知るといっても貴重な資料である。



1911	明治44年	8月号	千五百圓で出来る洋風の住宅	橋口信助
1911	明治44年	9月号	中等の洋風住宅	橋口信助
1911	明治44年	11月号	天然を利用した建築	橋口信助
1912	大正 1年	9月号	中流の洋風住宅に要する家具	橋口信助
1913	大正 2年	1月号	實行しやすい臺所の改良案	深見久七
1913	大正 2年	3月号	食事部屋を如何に設備すべきか	深見久七
1913	大正 2年	5月号	趣味の方向より見たる衣食住	岩村 透
1913	大正 2年	6月号	玄關の裝飾と設備	深見久七
1913	大正 2年	6月号	千圓で出来る丸木造りの別荘	橋口信助
1913	大正 2年	8月号	西洋風にした書齋	深見久七
1913	大正 2年	12月号	日本の風土に適合せしめた洋風建築	小笹三郎
1915	大正 4年	2月号	應接間の裝飾	塚本 靖
1915	大正 4年	10月号から	住宅建築の參考	大島正橋
1916	大正 5年	6月号	この頃の住宅及び今後の住宅	橋口信助
1916	大正 5年	8月号	中流の住宅はいかに設計すべきか	伊東忠太
1918	大正 7年	7月号	住宅の換氣設備	佐野利器
1920	大正 9年	4月号	今後の住宅はどうなるか	大熊喜邦
1920	大正 9年	6月号	出來合住宅組立住宅	大熊喜邦
1921	大正10年	4月号	建築から見た米國の家庭生活	大澤一郎
1921	大正10年	4月号	住宅建築家としての婦人	岡田信一郎
1921	大正10年	4月号	新時代の要求する家具	木檜恕一
1922	大正11年	8月号	住宅建築に現れたる時代の姿	佐藤功一
1923	大正12年	7月号	海岸の小別荘	遠藤 新
1923	大正12年	11月号	バラック・バラック・バラック	遠藤 新
1924	大正13年	2月号	住宅建築問答 木造の耐震構造に就て	木檜恕一
1924	大正13年	3月号	子供室とその設備	木檜恕一
1924	大正13年	5月号	一文字の家の變化	遠藤 新
1924	大正13年	5月号	住宅小品十五種	遠藤 新
1924	大正13年	6月号	小住宅の間取りと寢室の新しい設備	木檜恕一
1924	大正13年	9月号	夏涼しい家	佐藤功一
1924	大正13年	11月号	經濟的に考案した新しい住宅設備	木檜恕一
1925	大正14年	1月号	住宅小品二種	遠藤 新
1925	大正14年	3月号	臺所のつくり方	遠藤 新
1925	大正14年	3~8月号	通俗建築字彙	猪野勇一編
1925	大正14年	8月号	新しい町に望む 發生的に考へる	遠藤 新
1925	大正14年	11月号	開放した茶の間の一例	今和次郎

1926	大正15年	1月号	新婚家庭内の品物調査	今和次郎
1926	大正15年	1月号	八帖床押入つき	遠藤 新
1926	大正15年	3月号	子供室は六ヶ敷い	遠藤 新
1926	大正15年	4月号	玄關門垣根	遠藤 新
1926	大正15年	5月号	獨立の家	田川大吉郎
1926	大正15年	7月号	住宅改造案に答へて	遠藤 新
1926	大正15年	9月号	農家の臺所を理想的に改造する法	徳永 庸
1926	大正15年	10月号	和洋折衷小住宅の設計を批判して	徳永 庸
1926	大正15年	12月号	家族八人の住宅設計の批判	徳永 庸
1927	昭和 2年	4月号	三四千圓で出来る小住宅	遠藤 新
1927	昭和 2年	5月号	千圓と千五百圓の住宅	今和次郎
1927	昭和 2年	6月号	鼠が出ない木造住宅の造り方	永江 亘
1927	昭和 2年	9月号	石原さんの家	遠藤 新
1927	昭和 2年	11月号	郊外小住宅情景	今和次郎
1928	昭和 3年	4月号	設備を主とした家	佐藤功一
1928	昭和 3年	4月号	有川君の家	遠藤 新
1928	昭和 3年	7月号	日本間を涼しげな洋風にするには	木檜恕一
1928	昭和 3年	10月号	私が室を飾るとしたら	エム・ベーコン・ハッパー
1928	昭和 3年	10月号	臺所の設計に見られる新傾向	大熊喜邦
1929	昭和 4年	9月号	三千圓で出来た私の家	今和次郎
1929	昭和 4年	10月号	建てた家のこと	今和次郎
1929	昭和 4年	10月号	小住宅の間取り	櫻井省吾
1929	昭和 4年	12月号	田舎風な家	矢田 茂
1930	昭和 5年	9月号	共同住宅の方へ	石原憲次
1930	昭和 5年	11月号	グループ住宅懸賞當選發表	遠藤 新
1931	昭和 6年	9月号	現代の集合住居	蔵田周忠
1932	昭和 7年	3月号	農婦の生活	今和次郎
1932	昭和 7年	6月号	まことの隣人友の會々員の住宅を設計して	石川 徹
1933	昭和 8年	2月号	アパート經營の手引	細木盛枝
1933	昭和 8年	10月号	あらゆる意味での實驗住宅	山越邦彦
1933	昭和 8年	10月号	乾式建築の住宅	市浦 健
1933	昭和 8年	10月号	小住宅 私共の家	池谷定雄
1934	昭和 9年	8月号	山の小別荘	市浦 健
1934	昭和 9年	10月号	近代的住宅	ブルノオ タウト

### 3. 記者による記事その他

もちろん記者による新しい住宅や住生活の紹介，提案記事も多い。250件以上，約800頁である。

#### 注および引用文献

- 1) 下中邦彦，日本人名大事典 現代，577(1979)
- 2) 国史大辞典編集委員会，國史大辞典 第七卷，吉川弘文堂，214(1986)  
日本歴史大辞典編集委員会，日本歴史大辞典，河出書房新社，441(1979)
- 3) 婦人之友社，創立者の歩んだ道 婦人之友小史，18(1968)